

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393300088		
法人名	社会福祉法人 和敬会		
事業所名	グループホーム なごみの郷 あやめ		
所在地	愛知県蒲郡市柏原町加治替戸3番地1		
自己評価作成日	平成27年 2月28日	評価結果市町村受理日	平成27年 6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2393300088-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2393300088-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 3月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症と診断をされた入居者の皆様が、地域や社会との係りを継続して保てるよう、社会の空気に触れられる時間を増やすため外出を積極的に行っています。土地柄を活かしみかん狩りやイチゴ狩り等、季節を感じていただけるような外出も心がけています。また、地域の中のボランティアの皆様にご協力いただき、多くのイベントを開催して地域からの風を入居者の皆様に届けていただいています。その他、日常的なケアにおいては、水分ケアや歩行練習等の実施により自尊心等を守るためのオムツ外し並びに認知症状緩和への取り組みや、花への水やり等、日常生活の中で役割を感じていただきながら、少しでも認知症上の改善、維持に繋がるための取り組みを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1年前に、地域密着型特養、デイサービス、小規模多機能型居宅介護等と共に、複合施設の一部として開設されたグループホームであり、行政や地域からの期待度も大きい。その期待に応えるべく、高い志を持った職員の集団が日々の支援にあたっている。  
 利用者・家族の意見や要望には即座に対応する姿勢で臨んでおり、「職員の顔と名前が分からない」には、ユニット入口に職員の名前入りの顔写真を貼り出して応えた。「家族間の接点がない」には、家族会を発足させた。この第1回の家族会が成功裏に終わったことを受け、職員から「家族会の年間2回開催」が提案され、次年度の計画に盛り込まれることとなった。  
 利用者を中心に、法人と職員、家族がバランスよく支援に携わっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『おだやかな生きるを支えたい』4月開所時の研修で理念やコンセプトについての研修を行った。各ユニットのスタッフルームに掲示し職員に意識付け出来る様にしている。	法人名の「和敬会」は、施設長の名前にあやかかったものかと思っただが、聞いてみれば、「和を尊ぶ十七条の憲法に由来する」とか。「和やかに」、「穏やかに」、理念に忠実な支援が展開されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所1年目ということもあり地域とのつながりも、まだまだ少ないが、地域のボランティアの方々に定期的に来て頂いたり、保育園児の慰問で地域との交流を行っている。	地域密着型特養、デイサービス、小規模多機能型居宅介護等と共に複合施設としてオープンした。開設1年目ではあるが、ボランティアの来訪も多く、複合施設としてのスケールメリットを活かした地域展開である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りへの参加やボランティアの方と一緒に花植えやみかん狩りを行い、地域の方と交流し認知症の方との関わりで理解してして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、地域住民代表、利用者代表、行政代表の方々に参加頂き運営状況の報告、利用者の様子の報告を行い、意見交換を行っている。	開設以来2ヶ月に1度の開催を続け、会議の議事録も適切に作成されている。ホームが抱える課題や問題点の討議は少なく、地域密着型サービスを正しく理解してもらうための説明や報告が議事を中心である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から密に連絡は取れていないが、運営推進会議に参加して頂き、事業所の状況等を報告し協力関係が築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議には、市の担当課と地域包括支援センターから役職者や担当者が出席している。新しい形の複合型施設として、行政の注目度も高い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。ただ、職員間で理解に差があることもあるので、今後更なる理解を深めるため研修、勉強会を行っていきたい。	施設長、管理者共に、身体拘束の無い支援の重要性を十分に理解しており、言葉による拘束についても注意を払っている。ホームの立地する地域は漁師町であり、職員の語気の強さによる弊害にも腐心している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、心理的虐待等について研修や勉強会を行い学んでいく必要がある。不適切なケアがないか職員間で注意意識づけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方、1名が成年後見人制度を利用された方がみえる。今後、権利擁護、後見人制度について学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者から契約時に説明を行っている。解約時も説明を行い理解、納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際、家族からの意見や要望を聞くように努めている。その他としてご意見受付表苦情受付簿も置いている。	家族アンケートの結果は良好であった。家族から出た意見や要望(「職員の名前が分かりづらい」、「家族同士の話し合いの場が欲しい」等)には、迅速に対応している。職員の情報共有も評価が高かった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を開催し、各入居者に関する処遇面、業務改善等、職員の意見や提案並びに相談や検討する機会を設けている。	職員間のコミュニケーションが良好であり、情報共有が十分であることから、家族アンケートでも賞賛の言葉があった。家族会が成功裏に終わったことから、職員からは年間2回に開催回数を増やす提案が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や労働時間等については、管理者と事務で管理、把握をしている。給与規定等を定め、これに沿った算定を行っている。職員からの希望休暇も希望に沿えるよう調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、他施設の取組み等の情報を得ている。内部では、介護力向上プロジェクトを発足させ、自立支援実現に向け介護職員としての専門性向上にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	来年度よりGH連絡協議会への参加を予定している。勉強会には参加させて頂いた。同業者との交流から、さらなるサービスの向上に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のインテーク時に本人が思っている事、不安な事を聞き取り、本人が安心して利用できるような関係づくりが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安、要望を聞き取り、家族の立場を理解し、安心して相談できる関係性が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、必要なサービスを利用できる様、他サービスの検討を含めた対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることをやって頂き、一緒に楽しみ、感謝の言葉をかけている。他利用者の心配をしたり、思いやる関係もできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際、居室でゆっくりお話しして頂いたり、一緒に外出できるようにしている。面会時、職員から施設での生活の様子を家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同施設内に居る親類や知人のユニットに訪問している。他施設に入所されている家族に会いに行く機会を設け、職員が付き添いを支援して。家族と相談し外出できるように支援している。	地域に住む知人・友人の来訪がある。馴染みの場所の支援として、職員が付き添って、弘法さんの縁日や神社への初詣が行われている。定期的にスーパー銭湯に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの共同生活の場での席位置を考慮している。利用者の間に職員が入り利用者同士関わりが持て、孤立しないように職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからも、入院先にお見舞いに行ったり、家族に本人の様子を伺い、話をしている。相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人に希望、意向を聞き、希望に沿った支援をしていくよう職員間で話し合っている。	利用者の思いや意向を聞き取った時には、「ケース記録」に記録することとしているが、口頭で計画作成担当者に伝えることが多い。	思いや意向には、直ぐに実行できるものや、介護計画に取り上げるべきもの等、様々なものが含まれている。確実に「ケース記録」に記録し、「仕分け」のルール構築が待たれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時、家族から詳しく話を聞いている。入所後も本人から話を聞くようにしている。本人から聞けない場合は家族から聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個別に記録に残し職員全員で情報を共有し心身状態、個人の有する力の現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向に合わせ、より良く暮らせるよう配慮し職員間で話し合っている。随時、計画作成者と担当者がショートカンファレンスを行っている。	定期的な介護計画の見直しとしては、安定した利用者は6ヶ月毎、他は3ヶ月毎に実施されている。状態に変化があった場合にも見直すこととしているが、思いや意向の変化に着目した見直し事例はなかった。	「個別ケア」は、思いや意向を反映させた「その人らしさ」の出た介護計画の作成から始まる。「その人らしさ」の感じられる介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、食事量、バイタルチェック、排泄等の個別の記録を行い、職員間で共有し話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、職員が通院の支援を行っている。家族での受診が難しい時は職員で対応し状況やニーズに応じ柔軟な支援が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に来て頂いている地域のボランティアの方や毎月来て頂いている訪問理美容。利用者から聞き取り、馴染の場所への外出レクリエーションを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医があるが、本人、家族の希望でかかりつけ医を決めている。本人、家族の状況に合わせ職員が付き添い受診を行ったり、受診の送迎を行っている。	利用者・家族の選択によりかかりつけ医を決めている。往診がないことから、職員が付き添って通院している。利用者・家族、職員にとっては、併設の特養の看護師が大きな安心感(存在)になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH専従の看護師はいませんが、同施設内に併設してる特養の看護師に定期的に様子をみてもらい、情報を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、安心して治療して頂けるよう、お見舞いに行ったり、家族や病院関係者と連絡をとり情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に救急対応時、終末期の確認を取っている。本人の状態に変化がみられた時は、本人、家族と話し合い、事業所で出来ることを支援していく。併設の特養とも連携を図っていく。	利用者に穏やかに生活してもらうため、利用者の思いや病状の進行状態を考慮して、適切と思われる「住み家」への住み替えを提案している。併設特養への転居を前提として、相談に入っている利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し全職員で共有している。消防署員の指導でAEDの使用法の講習を受けた。施設にAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導を受け、施設全体で避難訓練を行っている。消火器や、救助袋を実際に使用し使い方を学んだ。	海岸線からはさほど離れていないが、標高があることから地震による津波の心配はない。2回の防災訓練を実施済みではあるが、夜間を想定した訓練を行ったことはない。地域の福祉避難所登録も検討中である。	夜間の災害発生時には、地域の協力が欠かせない。運営推進会議の検討事項とする等、地域との相互協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴に配慮した言葉掛けを行っている。職員間で声掛けに注意している。入浴等、同性介助を望まれる利用者には、同性介助を行っている。	「和やかにして、敬う」との法人名(和敬会)の通り、利用者には尊厳を込めた対応を心掛けている。あるユニットには複数の男性職員が配置されていたが、いずれも優しい言葉掛けで利用者に接していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話中で、利用者一人一人希望や思いを確認し、自己決定できるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調を確認し利用者のペースで生活出来るように声掛けを行っている。本人の希望に沿い支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理美容を利用している。毛染めやパーマ、顔そりも希望があれば行っている。外出時、お化粧品をして頂いたり、以前と同じようにおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、厨房で調理して頂いている。ユニットで利用者と職員と一緒に盛り付け、下膳を行っている。月に2回季節に合わせたおやつ作りを利用者と職員で行い楽しんでいる。	食事は複合施設の共同厨房で調理され、ホームに運ばれてから利用者と職員とで盛り付け、配膳が行われている。利用者の手伝いも積極的で、約半数の利用者が自力で下膳を行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランス、カロリーを計算しメニューを決めている。水分量1日1500mlを目標にしている。水分摂取の記録を取り、1日の水分量を把握している、好みの飲み物を提供し水分確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし口腔ケアを促しています。本人の力に応じ介助が必要な方には一部介助し支援している。義歯を使用されている方も多く、夜間は洗浄剤に浸け洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつゼロの取り組みを行っている。一人一人の排泄パターン、間隔を把握しトイレへの声掛け、誘導、介助を行い、トイレで排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本と考えており、おむつ外しに取り組んでいる。まだ「おむつゼロ」の目標達成には至っていないが、目標に挑んでいる職員の意識は高い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中、散歩等を促し体を動かしたり、水分摂取を確認し水分を促している。毎日、排泄表をチェックし確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと個人のペースで入浴できるようにしている。入浴剤を使用し入浴を楽しんで頂いている。利用者のADLに合わせた浴槽を考慮している。	ホームの個浴の他、併設特養の特殊浴槽を使うこともでき、現在4名が利用している。桜、ラベンダー等、季節の香りの入浴剤を使い、楽しい入浴を演出している。定期的にスーパー銭湯に出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせ、居室で休む等で休息を取って頂いている。夜、入眠しやすいよう、個々に合った照明の明るさや居室の温度等の環境作りに配慮し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用されている薬の内容は個人ファイルに保管し確認できるようにしている。薬の内容の変更は、連絡帳に記載し全職員が確認できるようにしている。症状の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の洗濯物畳み、お茶碗、机拭き、花の水やり等、個々の生活歴や力を活かした役割をもって頂いている。気分転換が図れるよう、散歩や外出の楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、季節に合わせた外出(初詣、イチゴ狩り等)を行っている。利用者の希望に沿って外出できるよう家族に協力頂き、外出されている方もいる。	職員1名に利用者が1名、あるいは2名と、連れ立って外出し、お菓子の買い出しに行く。毎月外出レクが組まれており、初詣に始まり、梅見、桜の花見、イチゴ狩りと、1年を通じてドライブを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金は事務所の金庫に保管し、職員で管理を行い、毎月、収支を家族に報告している。支払いの出来る利用者には外出時、財布を渡し支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は自由にやり取りをしている。利用者の訴えを傾聴し家族へ連絡を入れ直接話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように季節に合わせた飾り付けを利用者と一緒で作成し共用のスペースに飾っている。過ごしやすい空間になるよう配慮している。	共用空間は広く、テーブルを配した食堂とイベントフロアとに2分されている。食事を終えた利用者がイベントフロアに移動するだけでも、かなりの機能訓練になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を把握し気の合った利用者同士でお話できるよう配慮している。テレビの見やすい位置にソファを置き一人で過ごしたり思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、ベッド、備え付けの収納以外の物は、本人の使い慣れた馴染の物や好みのものを持ってきて頂くようにし、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	開設から日も浅く、持ち込み量の少ない居室もあるが、ソファや籐の椅子、手作りの敷物が敷かれた生活感のある居室があった。ベッドを外し、フローリングの床に布団を敷いて寝る利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっている。手すりも設置してあり自立して生活できるようにしている。居室の表札、トイレの場所を表示している。居室、フロアを安全に移動できるよう環境整備を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300088		
法人名	社会福祉法人 和敬会		
事業所名	グループホーム なごみの郷 さくら		
所在地	愛知県蒲郡市柏原町加治替戸3番地1		
自己評価作成日	平成27年 2月28日	評価結果市町村受理日	平成27年 6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393300088-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393300088-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症と診断をされた入居者の皆様が、地域や社会との係りを継続して保てるよう、社会の空気に触れられる時間を増やすため外出を積極的に行っています。土地柄を活かしみかん狩りやイチゴ狩り等、季節を感じていただけるような外出も心がけています。また、地域の中のボランティアの皆様にご協力いただき、多くのイベントを開催して地域からの風を入居者の皆様に届けていただいています。その他、日常的なケアにおいては、水分ケアや歩行練習等の実施により自尊心等を守るためのオムツ外し並びに認知症状緩和への取り組みや、花への水やり等、日常生活の中で役割を感じていただきながら、少しでも認知症上の改善、維持に繋がるための取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『おだやかな生きるを支えたい』4月開所時の研修で理念やコンセプトについての研修を行った。各ユニットのスタッフルームに掲示し職員に意識付け出来る様にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所1年目ということもあり地域とのつながりも、まだまだ少ないですが、地域のボランティアの方々に定期的に来て頂いたり、保育園児の慰問で地域との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りへの参加やボランティアの方と一緒に花植えやみかん狩りを行い、地域の方と交流し認知症の方との関わりで理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、地域住民代表、利用者代表、行政代表の方々に参加頂き運営状況の報告、利用者の様子の報告を行い、意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から密に連絡は取れていないが、運営推進会議に参加して頂き、事業所の状況等を報告し協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。ただ、職員間で理解に差があることもあるので、今後更なる理解を深めるため研修、勉強会を行っていきたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、心理的虐待等について研修や勉強会を行い学んでいく必要がある。不適切なケアがないか職員間で注意し意識づけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の方、1名が成年後見人制度を利用された方がみえます。今後、権利擁護、後見人制度について学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者から契約時に説明を行っている。解約時も説明を行い理解、納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際、ご家族からの意見や要望を聞くように努めている。その他としてご意見受付表や苦情受付簿も置いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を開催し、各入居者に関する処遇面、業務改善等、職員の意見や提案並びに相談や検討する機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や労働時間等については、管理者と事務で管理、把握をしている。給与規定等を定め、これに沿った算定を行っている。職員からの希望休暇も希望に沿えるよう調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、他施設の取組み等の情報を得ている。内部では、介護力向上プロジェクトを発足させ、自立支援実現に向け介護職員としての専門性向上にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	来年度よりGH連絡協議会への参加を予定している。勉強会には参加させて頂きました。同業者との交流から、さらなるサービスの向上に取り組んでいきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のインテーク時に本人が思っている事、不安な事を聞き取り、本人が安心して利用できるような関係づくりが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安、要望を聞き取り、家族の立場を理解し、安心して相談できる関係性が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、必要なサービスを利用できる様、他サービスの検討を含めた対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	面会の際、居室でゆっくりお話して頂いたり、一緒に外出できるようにしている。面会時、職員から施設での生活の様子を家族に伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際、居室でゆっくりお話して頂いたり、一緒に外出できるようにしている。面会時、職員から施設での生活の様子を家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同施設内に居る親類や知人のユニットに訪問している。家族、知人の面会時は話しやすい環境作りを配慮している。居室に家族の写真を置いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で共同作業等をしてもらい交流をしている。共同生活の場での席位置を考慮している。利用者の中に職員が入り利用者同士関わりが持て、孤立しないように職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してからも、入院先にお見舞いに行ったり、家族に本人の様子を伺い、話をしている。相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話から利用者一人一人に希望、意向を把握し、希望に沿った支援をしていくよう職員間で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時、家族から詳しく話を聞いている。入所後も本人から話を聞くようにしている。本人から聞けない場合は家族から聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個別に記録に残し職員全員で情報を共有し心身状態、個人の有する力の現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向に合わせ、より良く暮らせるよう配慮し職員間で話し合っている。随時、計画作成者と担当でショートカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、食事量、バイタルチェック、排泄等の個別の記録を行い、職員間で共有し話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、職員が通院の支援を行っている。家族での受診が難しい時は職員で対応し状況やニーズに応じ柔軟な支援が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に来て頂いている地域のボランティアの方や毎月来て頂いている訪問理美容。利用者から聞き取り、馴染の場所への外出レクリエーションを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医があるが、本人、家族の希望でかかりつけ医を決めている。本人、家族の状況に合わせ職員が付き添い受診を行ったり、受診の送迎を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH専従の看護師はいませんが、同施設内に併設してる特養の看護師に定期的に様子をみてもらい、情報を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、安心して治療して頂けるよう、お見舞いに行ったり、家族や病院関係者と連絡をとり情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に管理者から救急対応時、終末期の確認を取っている。本人の状態に変化がみられた時は、本人、家族と話し合い、事業所で出来ることを支援していく。併設の特養とも連携を図っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し全職員で共有している。消防署員の指導でAEDの使用法の講習を受けた。施設にAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導を受け、施設全体で避難訓練を行っている。消火器や、救助袋を実際に使用し使い方を学んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活歴に配慮した言葉掛けを行っている。職員間でも声掛けに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話中で、利用者一人一人希望や思いを確認し、自己決定できるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調を確認し利用者のペースで生活出来るように声掛けを行っている。本人の希望に沿い支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理美容を利用している。毛染めやパーマ、顔そりも希望があれば行っている。自分で着る服を選んでもらっている。以前と同じようにおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、厨房で調理して頂いている。ユニットで利用者と職員と一緒に盛り付け、下膳を行っている。月に2回季節に合わせたおやつ作りを利用者と職員で行い楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランス、カロリーを計算しメニューを決めている。水分量1日1500mlを目標にしている。水分摂取の記録を取り、1日の水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし口腔ケアを促しています。本人の力に応じ介助が必要な方には一部介助し支援している。義歯を使用されている方も多く、夜間は洗浄剤に浸け洗浄している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつゼロの取り組みを行っている。一人一人の排泄パターン、間隔を把握しトイレへの声掛け、誘導、介助を行い、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中、散歩等を促し体を動かしたり、水分摂取を確認し水分を促している。バナナやヨーグルトを食べ自然排便を促している。毎日、排泄表をチェックし確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ゆっくりと個人のペースで入浴できるようにしている。入浴剤を使用し入浴を楽しんで頂いている。利用者のADLに合わせた浴槽を考慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活スタイルに合わせ、居室で休んで頂き、休息を取って頂いています。夜、入眠しやすいよう、個々に合った照明の明るさや居室の温度等の環境作りに配慮し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用されている薬の内容は個人ファイルに保管し確認できるようにしている。薬の内容の変更は、連絡帳に記載し全職員が確認できるようにしている。症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の洗濯物畳み、お茶碗、机拭き、花の水やり等、個々の生活歴や力を活かした役割をもって頂いている。気分転換が図れるよう、散歩や外出の楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、季節に合わせた外出(初詣、イチゴ狩り等)を行っている。利用者の希望に沿って外出できるよう家族に協力頂き、外出している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金は事務所の金庫に保管し、職員で管理を行い、毎月、収支を家族に報告している。職員と一緒に買い物へ行き、本人の希望を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望のある時は、自由にできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように季節に合わせた飾り付けを利用者と一緒に作成し共用のスペースに飾っている。利用者の居室の入り口にも飾り、過ごしやすい空間になるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を把握し気の合った利用者同士でお話できるよう配慮している。テレビの見やすい位置にソファを置き自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、ベッド、備え付けの収納以外の物は、本人の使い慣れた馴染の物や好みものを持ってきて頂くようし、家族の写真を飾り、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっている。手すりも設置してあり自立して生活できるようにしている。居室の表札、トイレの場所を表示している。居室、フロアを安全に移動できるよう環境整備を行っている。		